



TITLE:

1943年日蝕と月蝕 (1943年の天文年鑑)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

1943年日蝕と月蝕 (1943年の天文年鑑). 天界 1942, 23(259): 8-10

ISSUE DATE:

1942-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168538>

RIGHT:



困難を嘗めることと思ふが、特に我國では、今後1963年まで、長く皆既蝕を見ることが出来ない最後のものであるから、熱心家は、萬難を排して、觀察に出かけるだらう。北海道の札幌や稚内以西は、初虧が日出前であるため見えないし、日出の時、既に皆既してゐるのであるが、旭川以東は（山岳に妨げられない限り）全部が見える。但し、太陽の高度が一般に低いので、出来るだけ東部の土地が宜い。北海道の各地に於ける皆既の時刻や高度は、大略下の通り：

		皆 既	生 光	皆既時間	太陽の高度
		時 分	時 分	分 秒	°
旭	川	7 52.5	7 54.3	1 48	10.0
富	良	7 52.3	7 53.7	1 25	10.1
帯	廣	7 52.3	7 53.3	1 01	11.1
池	田	7 52.4	7 53.5	1 04	11.2
遠	輕	7 54.5	7 55.6	1 08	10.8
野	付	7 54.2	7 55.7	1 30	11.2
網	走	7 55.2	7 56.0	0 50	11.2
斜	里	7 55.4	7 56.3	0 55	11.5
弟	子	7 54.2	7 56.0	1 50	11.5
磯	茶	7 54.0	7 55.9	1 52	11.5
釧	路	7 53.0	7 54.5	1 30	11.5
原	岸	7 53.6	7 55.3	1 39	11.8
根	室	7 55.0	7 56.8	1 45	12.0
標	津	7 55.2	7 56.6	1 25	11.8
鹽	津	7 56.2	7 57.2	1 02	12.2

氣象家の説によれば、天氣は大體良好との豫想である。

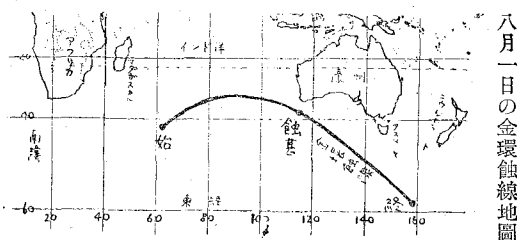
尙、本州その他の地に於ける部分蝕の時刻や蝕分は下の通りであるが、これもやはり水戸、山形、青森より以西は皆、日出時刻前に初虧が起るので、復圓だけしか觀測が出来ない。まことにきわどい日蝕である。〔天界 252 號参照〕

		初 虧	復 圓			初 虧	復 圓
		時 分	時 分			時 分	時 分
札	幌	(日出前)	9 36	金	澤	(日出前)	8 47
浦	河	6 30	9 04	名	古 屋	( " )	8 46
函	館	(日出前)	9 01	田	上	( " )	8 45
青	森	( " )	9 00	大	阪	( " )	8 43
水	澤	6 36	8 58	倉	敷	( " )	8 40
仙	臺	6 36	8 57	廣	島	( " )	8 38
新	潟	(日出前)	8 54	下	關	( " )	8 35
水	戸	( " )	8 54	高	知	( " )	8 36
東	京	( " )	8 50	福	岡	( " )	8 33
靜	岡	( " )	8 47	長	崎	( " )	8 30
長	野	( " )	8 49	鹿	兒 島	( " )	8 30

**八月1日** この蝕の部分蝕はインド洋(北部を除く)からスマトラ、マライ、ボルネオ、ジャワ、濠洲、ニウジーランドあたりで見えるが、我が日本では見えない。蝕の始め終りの時刻は(日本標準時で)

部分蝕の始まり	8月1日 10時36分
金環蝕の始まり	12時05分
正午に金環蝕の起る時は	13時31分
金環蝕の終り	14時26分
部分蝕の終り	15時55分

又、最も待望の金環蝕の見える線は南インド洋上から、濠洲やタスマニヤの南方の海上であるから、航海中の船でも見ないかぎり、全く観測の機会が無い。



**月蝕 二月20日** この蝕の始め終りの時刻は(日本標準時で)下の通り：

部分蝕の始まり(月が地球の本影に入る時)	20日 13時03分
蝕甚(蝕分は76%)	14時38分
部分蝕の終り	16時13分

この月蝕が見える土地は、南北アメリカ、歐洲、大西洋、北氷洋等にわたり、太平洋の東部、アフリカの西部あたりでも見えるが、我が日本や、その他、東亞方面では見えない。

**八月16日** この蝕の始め終りの時刻は(日本標準時で)下の通り：

部分蝕の始まり(月が地球の本影に入る時)	16日 2時58分
蝕甚(蝕分は98%)	4時28分
部分蝕の終り	5時58分

二月の月蝕と入れ代り、この蝕は、我が日本を始め大東亞方面を中心として、印度、アフリカ、歐洲、濠洲、ニウジーランドあたりから、南極にわたり、見えるもので、北アメリカでは見えない。(又、九州、朝鮮以東の日本の内地では、蝕の終りの頃、地平線に遮られて、見えない。)眞夏の暁天の西空を賑はすだらう。